

# 経済財政諮問会議における 2018年前半の主な課題について (参考資料)

平成30年 1月23日

伊藤 元重

榊原 定征

高橋 進

新浪 剛史

# 1. グローバル視点からみた日本

◆ 近年、日本の評価が低下している項目、順位が低下している項目としては、人材育成関係（職業訓練、社員訓練）、イノベーション関係（産学連携、イノベーション人材（科学者・エンジニア））が目立つ。

図1 専門的な職業訓練の利用可能性

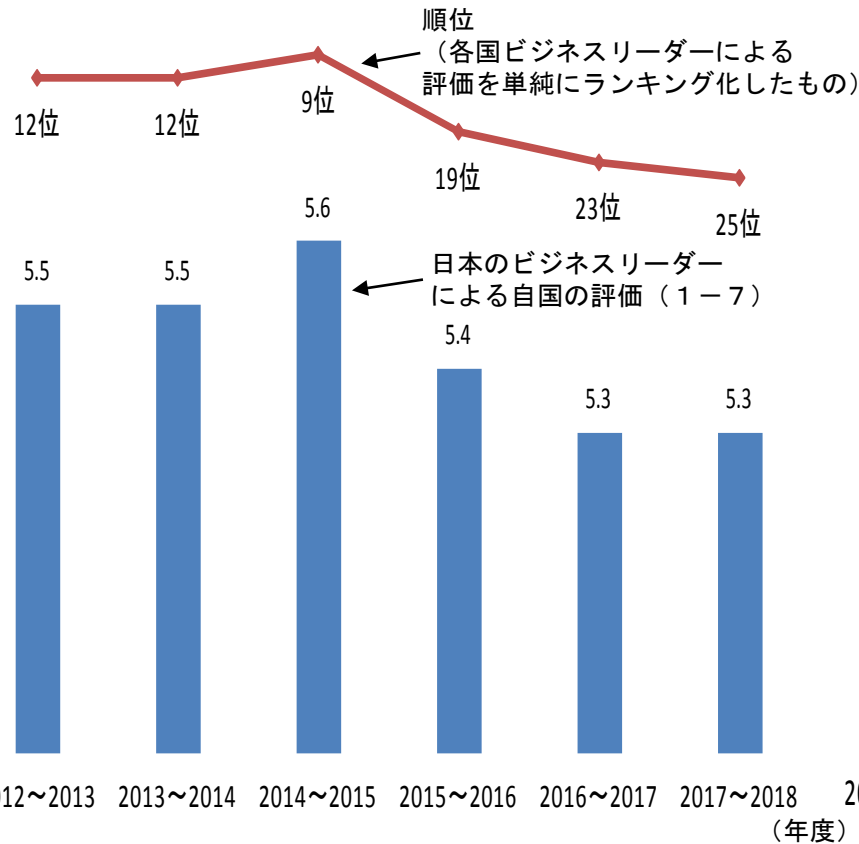


図2 R & Dにおける産学連携

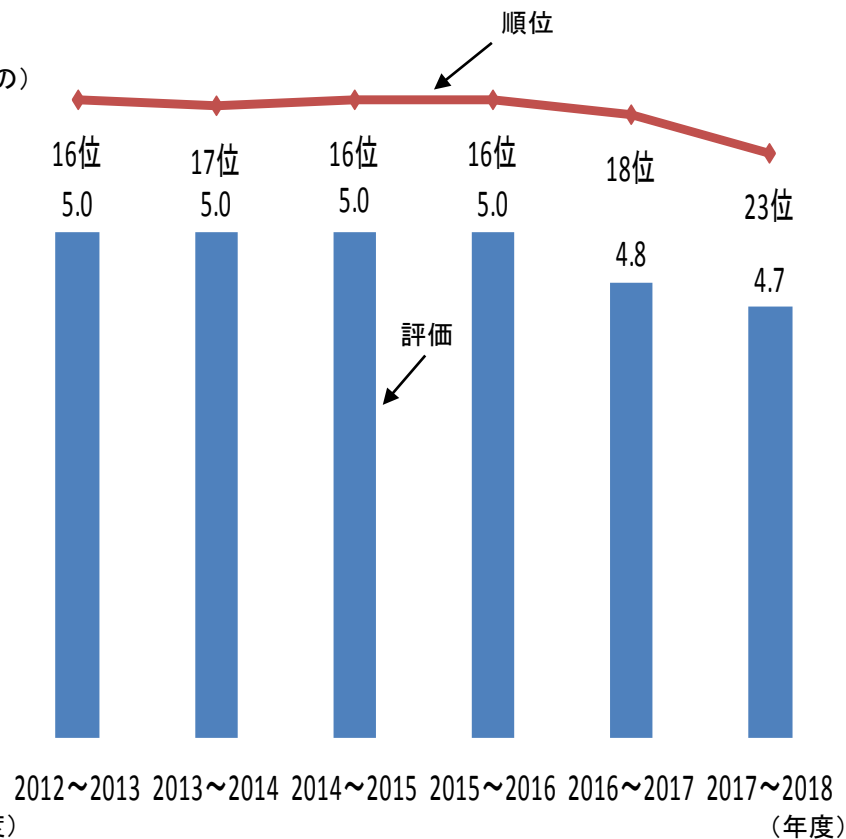
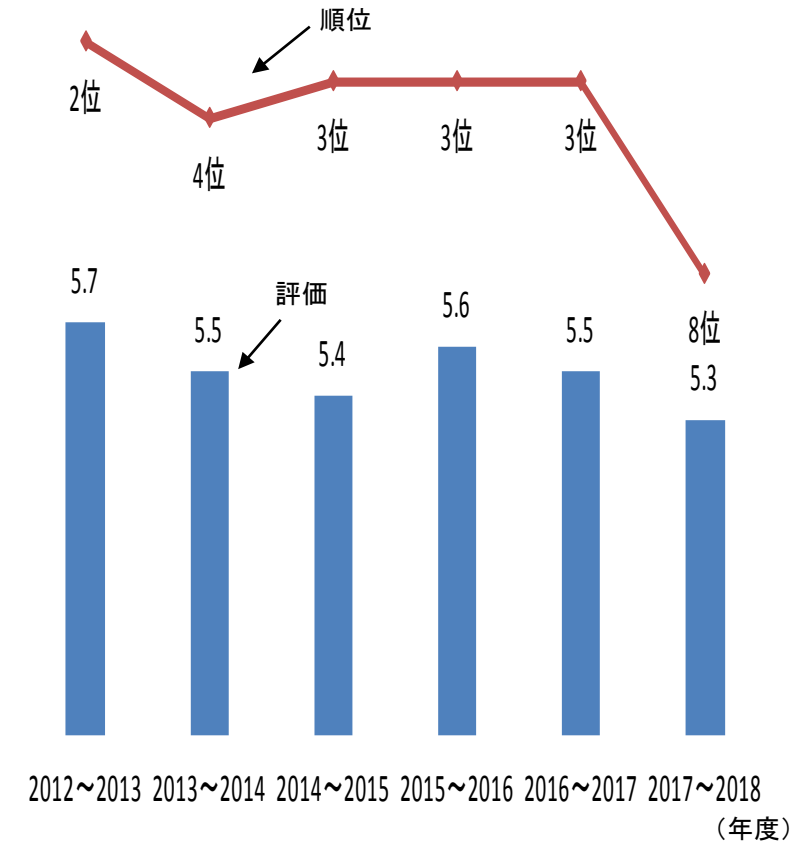


図3 イノベーション人材（科学者・エンジニア）の利用可能性



(備考) World Economic Forum “The Global Competitiveness Report”各年版より作成。図1は「高品質の職業訓練サービスはどの程度利用可能か」、図2は「R & Dについてビジネスと大学はどの程度連携しているか」、図3は「科学者とエンジニアはどの程度利用可能か」について、当該国のビジネスリーダーに聞いた結果を数値化した評価と我が国の相対的順位（全体144か国）を示す。

## 2. 人手不足への対応、人材活用の課題

- ◆ 現下の日本経済の最大の課題は人手不足。人手不足と人余りが共存するミスマッチが拡大。
- ◆ 世界で理系の基幹人材であるSTEM人材（科学・技術・工学・数学人材）が輩出される中、我が国でもリカレント教育の充実、外国人の活用などが課題。

図4 2018年の景気への懸念材料

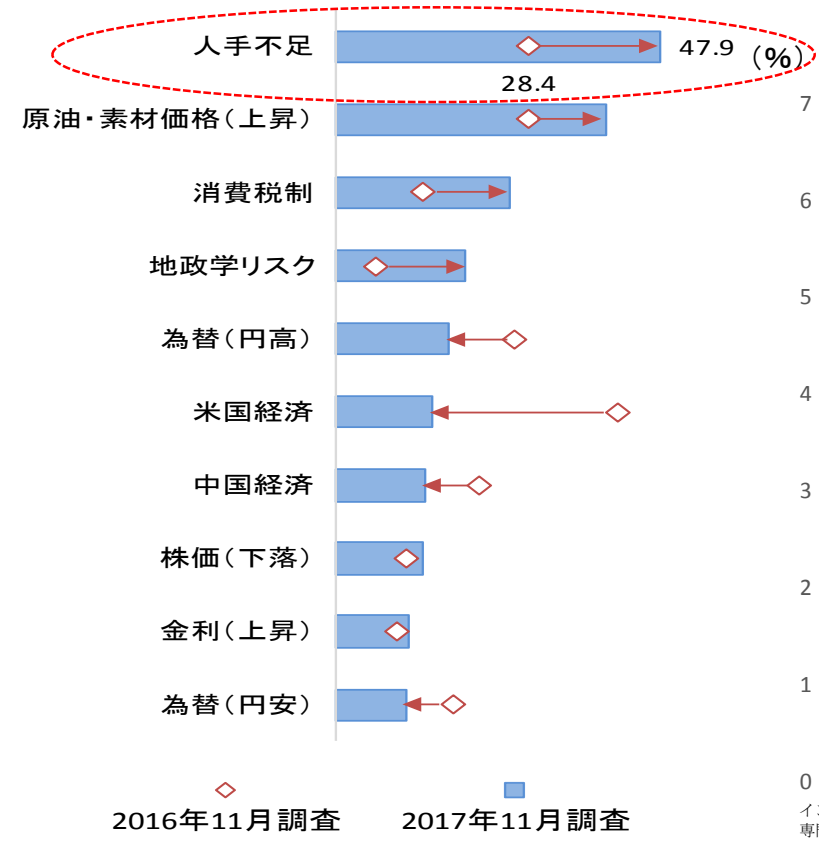


図5 転職市場での求人倍率  
～ミスマッチが拡大～

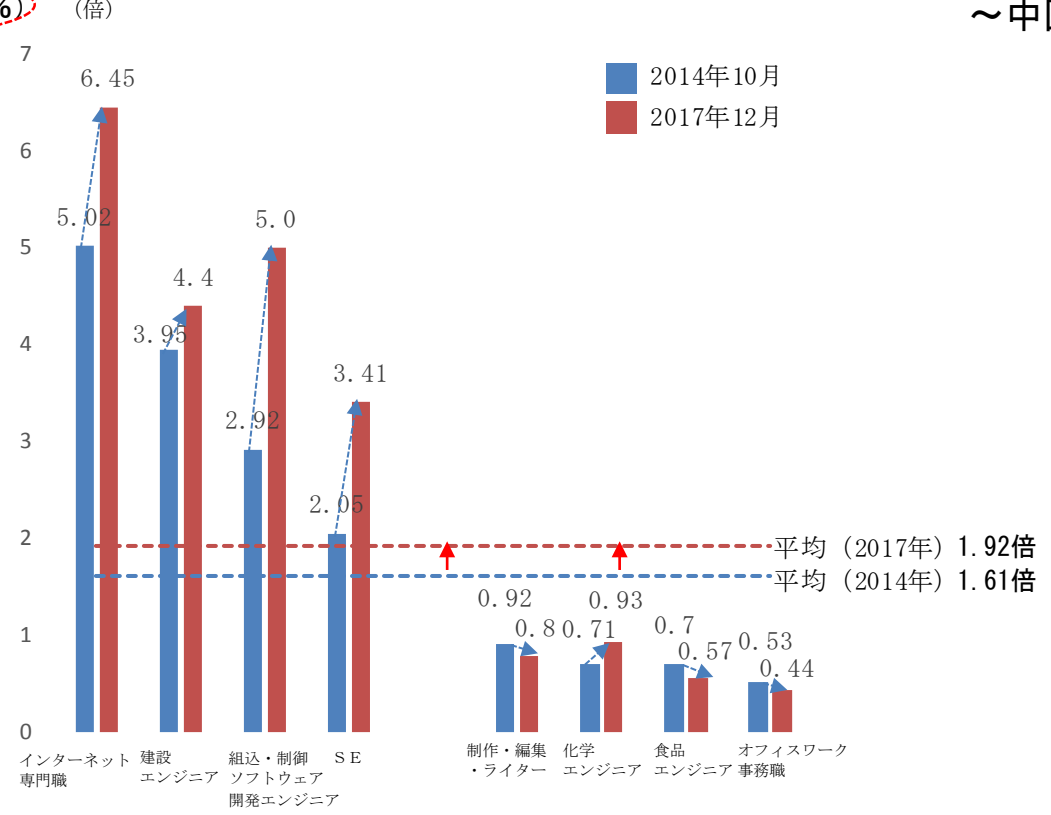
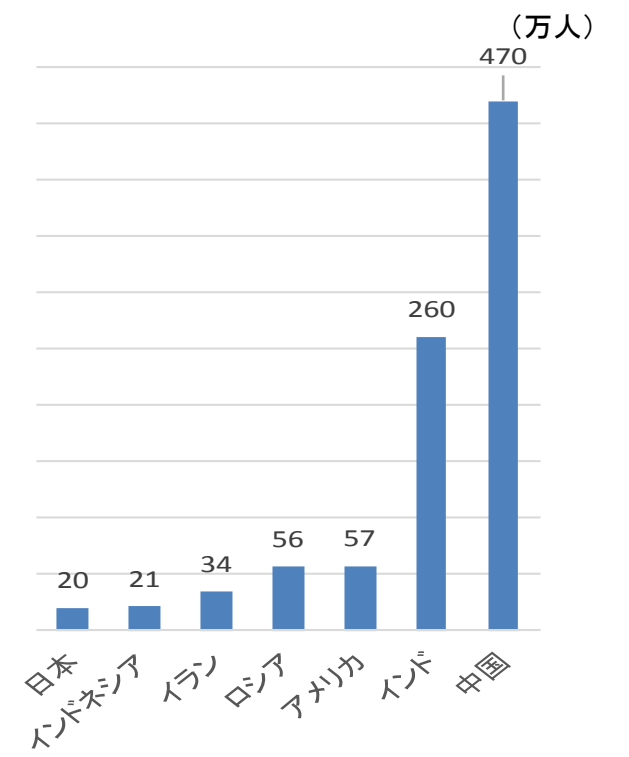


図6 理系の基幹人材  
(科学・技術・工学・数学関係学部の卒業生数)  
～中国は日本の24倍、インドは13倍～

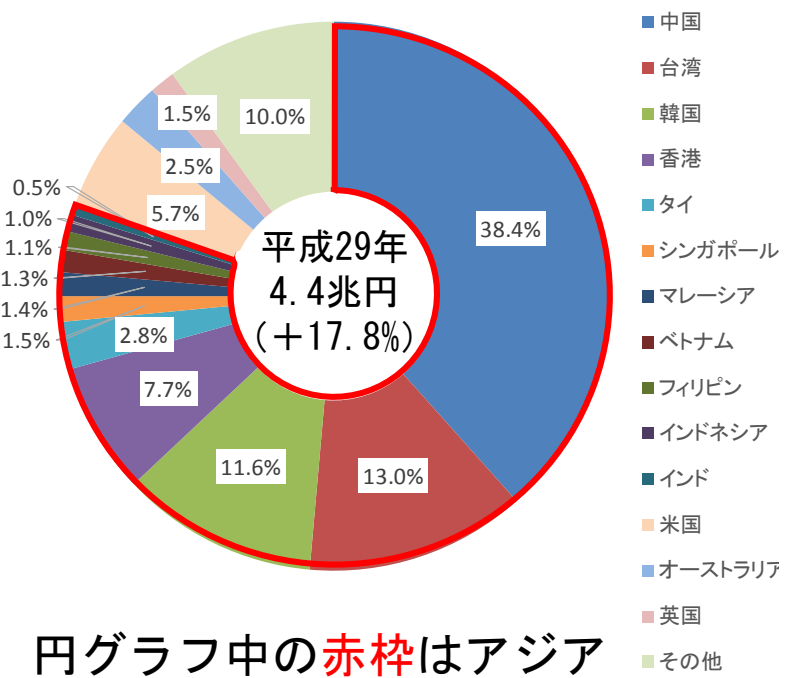


(備考) 図4は、帝国データバンク「2018年の景気見通しに対する企業の意識調査」より作成。図5は、株式会社リクルートキャリア・プレスリリース（2015年11月11日、2018年1月15日）より作成。図6は、World Economic Forum "The Countries With The Most STEM Graduates"より作成。STEMとはScience, Technology, Engineering and Mathematicsの意味。

### 3. グローバル視点の成長戦略

- ◆ インバウンド消費は拡大（前年比2割弱の増加）。アジア11か国で8割を占める。
- ◆ 今後、増加が見込まれるアジアの中間層・富裕層を中心に需要を取り込むことが必要。そのためには「ナイトタイムエコノミー」などリピーターを増やすための娯楽サービスの強化が課題。

図7 訪日外国人消費額  
(国別割合)



円グラフ中の赤枠はアジア

図8 アジア中間層・富裕層  
～中位中間層以上は15億人拡大～  
(2014年19億人→2030年34億人)

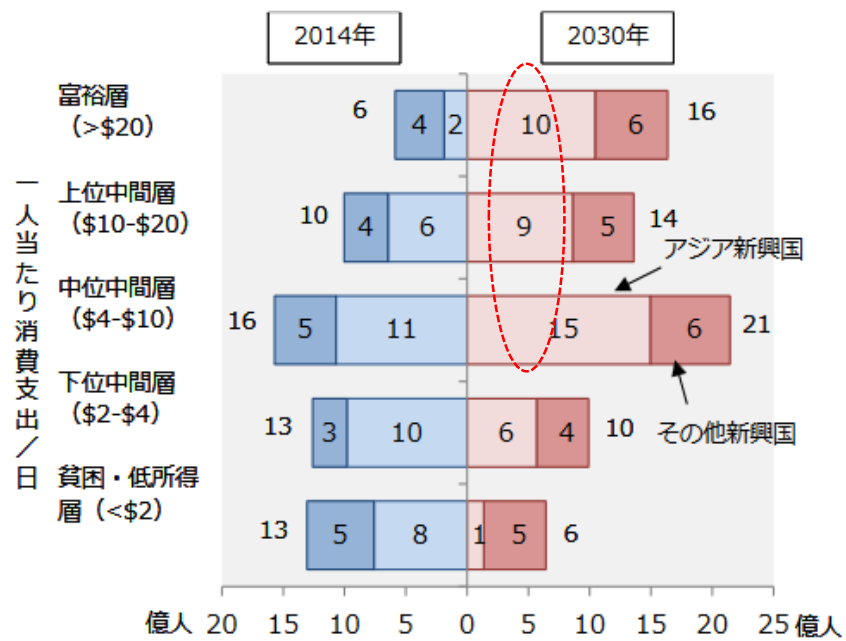
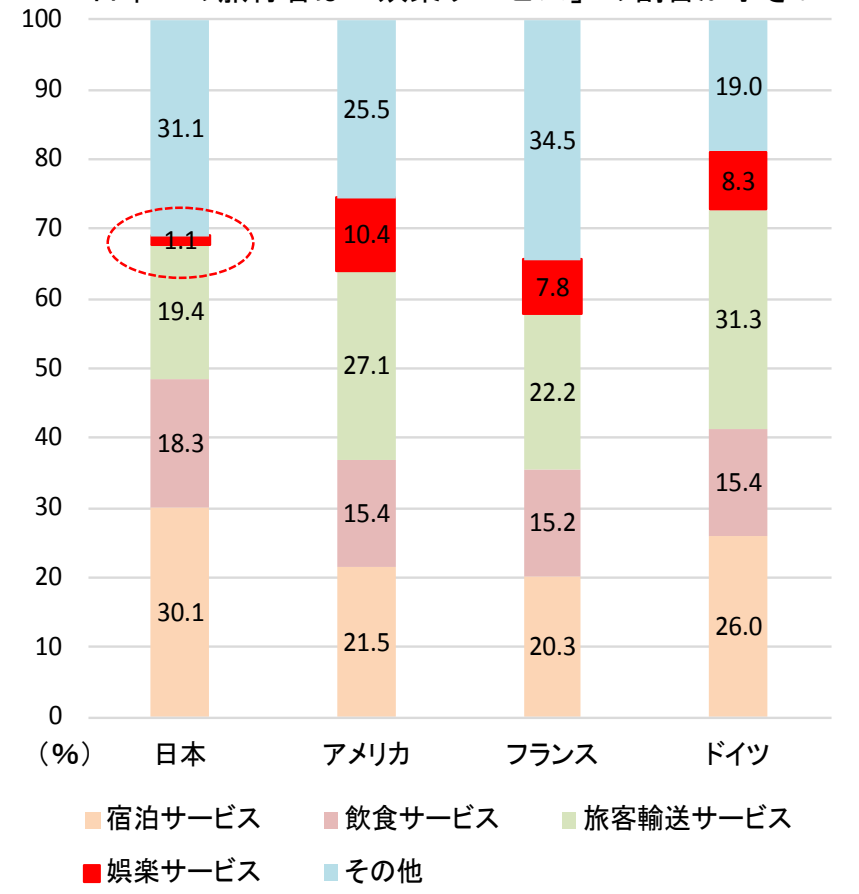


図9 インバウンド消費の内訳 (各国比較)  
～日本への旅行者は「娯楽サービス」の割合が小さい～



(備考) 図7は、観光庁「訪日外国人消費動向調査」より作成。図8は、三菱総合研究所(2016)「内外経済の中長期展望 2016-2030年度」から抜粋。図9は、OECD「Tourism Trends and Policies 2016」をもとに作成。